

# Progress Report for IT Education - Mongolian Project -

Prepared and presented  
by  
F SHINOHARA, Tokyo Gakugei University  
at  
Plenary Session  
5 Min during 10:25-10:50hrs  
18 December 2006  
Japan Center  
Ulaanbaatar, Mongolia

# IT教育指導書開発等進捗状況 —日本における研修内容と成果—

平成18年10月23日(月)～11月30日(木)

- 学校における授業観察および協議
- コンピュータ、メディア等関連企業機関視察
- コンピュータ関連国際会議参加
- マルチメディア学習教材活用国際コンテスト参加
- 日本国文化、歴史等施設見学

# 授業観察と協議

- 小学校2校、中学校1校、高等学校1校、大学2講義演習
  - 授業の目標、内容、構造
    - 目標が具体的か、児童生徒学生にとって身近な事例あるいは経験に基づく発問か、学習者による応答に対する教師の繰り返しあるいは説明による掘り下げ発問があるか、多様な関連事象を取り上げたか、応答を数多くの児童生徒等から得て、良く褒めたか、国の文化・歴史、あるいは地区や学校の特色や相違などを通じた価値の共有が話題に取り入れられていたか？
  - 授業の運営
    - 教材の準備状況は周到か、グループ学習、個別学習は目標と内容に合致しているか、学習者への指名は頻繁か、多数の児童生徒等に指名したか、友人どおしの協力や相談が推進されたか、家族や地域への働きかけが推進されたか？
  - 授業の評価
    - 学習者が自ら積極的に取り組めたか、満足したか、楽しんだか、次にあるいは次の時間、家庭等で、自分で何をやるかやれるか意欲がもてたか、得られた知識を自分の考えと比較し再構成し自分の言葉で表現できたか、

# 指導書の様式と内容

- 従前どおり。ただし、Four Pillars of Learningの理念をいっそう生かす努力
- 特に、各ページに欄外(右ページは、右、左ページは左)を設け、教師用と児童生徒等学習者向けそれぞれに、追加情報を記述する。
  - 教師向け
    - 関連の文献、資料、web、他の事例(ただし、「事例、各教師が、学校や地域および対象児童生徒等の実態や態様等に応じて、教師の経験をもとに、適切に入れ替えて利用する」を明記する。
  - 児童生徒等学習者向け
    - 関連の読み物、モンゴルの歴史、文化、先人の知恵
    - 発展的な関連の読み物、詩、資料など。その際に、事柄に応じて、地域の人々や家族に聞いたりして、友達と協力するなどの活動を通じて、自ら資料等を収集などすることを、記述する。
- 各章のはじめには、内容が他の学年のどの章と関係するか、また、他の教科のどのような内容と関係するか、図や表で表す。
- また、ページに比較的広い空白があれば、その章やテーマに関連する「軽い話」を「埋め草」として、「トピックス」あるいは「クイズ」(ともに、仮称)の標題のもとに、記述。その際に、

# その他、特筆すべき事柄

- マイクロソフト社との関係強化
  - MCPプログラム (MS Certified Professional Programme) に呼応できる、
    - モンゴル国IT資格(仮称)導入設置の推進
    - モンゴル国IT教育賞(仮称)導入設置の推進
  - フリーソフトウェアを使ったプログラミング教育の導入の可能性検討
- NHK日本賞ライブラリーの設置推進
  - IT教育サポートセンター(仮称)との連携強化をねらったライブラリーの設置推進
  - 映像メディアの制作および教育での活用促進事業の推進機設置促進
- マルチメディア学習教材活用国際コンテストへの参加国
- 「モンゴル国IT教育ジャーナル」(仮称)の刊行推進
  - 国際的機関紙ブランドへの志向
  - 国内学会の設立と関連学協会との連携